

さいたま市長 5月臨時記者会見

平成29年5月29日（月曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行        それでは、定刻となりましたので、ただいまから臨時記者会見を始めさせていただきます。

                  それでは、記者クラブ幹事社、産経新聞様、よろしく願いいたします。

○ 産経新聞        5月の幹事社を務めます産経新聞と申します。よろしく願いいたします。

                  それでは、市長3期目就任に当たっての抱負からちょっとお聞かせいただければと思います。

## 市長就任挨拶

○ 市 長        皆さん、こんにちは。さいたま市長の清水勇人でございます。

                  5月7日告示、5月21日投開票のさいたま市長選挙におきまして、多くの市民の皆様から熱いご支援をいただきまして、3期目の市政運営を担うことになりました。本日3期目としての初登庁を迎えたところでありますが、改めて市長として課せられました使命と、また責任の重さに身の引き締まる思いであります。

                  3期目のスタートに当たりまして、今後の市政運営に当たっての決意と、また取り組み等についてお話をしたいと思います。

                  「子供が輝く絆で結ばれたまち」、「市民一人ひとりがしあわせを実感できる都市」を実現したいと、平成21年5月の市長就任以来、この思いを胸に日夜市政発展のために取り組んでまいりました。また、「責任と共感」、「徹底した現場主義」、「公平・公正・開かれた市政」の3つの基本姿勢を掲げ、常に全力で市政運営に当たってきたところであります。

                  市民の皆様との約束を着実に実現をしていくために、「しあわせ倍増プラン」、あるいは「行財政改革推進プラン」を策定しまして、また2期目には市民や企業から選ばれる都市を目指そうということで、「さいたま市成長戦略」、「さいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しまして、着実にその事業を推進してきたところでございます。

加えて市民や事業者の皆様のご協力をいただき、「しあわせ倍増プラン 2013」の60項目111事業、また「行財政改革推進プラン2013」の46項目54事業について、おおむねこの2期目の中では8割達成することができました。さまざまな取り組みの結果、平成28年度さいたま市民意識調査では、さいたま市を「住みやすい」と感じている方が83.2%にも達しまして、また「これからも住み続けたい」という市民の割合も84.6%と、いずれも過去最高の数値になったところであります。

また、昨年日本総合研究所がまとめた指定都市の幸福度ランキングでは、本市は全国政令指定都市の中で幸福度1位の評価をいただくことができました。これまでの取り組みについては、自己満足に終わることがないように、グラフ等を活用し、わかりやすく説明することに努めてまいりました。

こうしたさいたま市であります。現在は人口が増加傾向にありまして、これから10年ぐらいは増加傾向にあると予測されておりますが、その後は減少に転じまして、団塊（ジュニア）世代の割合が多いために高齢化が急に進んでくるという見通しとなっております。

また、平成17年、22年、27年の国勢調査を見ましても、生産年齢人口については既に減り始めており、この問題は単身の高齢者世帯、高齢夫婦世帯の増加、核家族化の進展、コミュニティ力の低下を引き起こしております。そして、同時に公共施設の老朽化も進んでいると認識しております。

財政状況についても、これまでは比較的健全性を維持してまいりましたが、今後は社会保障関連経費等の増大によりまして、大変厳しい財政運営が見込まれております。これらの課題を乗り越えて、持続可能な成長をしていける都市をつくるためには、これから5年から10年、これは大変重要な時期であると考えております。

昨年3月に決定をされました「国土形成計画 首都圏広域地方計画」の中でも、これからの10年がさいたま市のみならず首都圏全体にとってその将来を決するまさに「運命の10年」であると位置づけられました。

本市は、東日本の多種多様な人、物、情報が実際に集結する最初の対流拠点として重要な位置づけが与えられました。今までのさいたま市の取り組みと、また国での位置づけを大いなる追い風と捉えまして、本市の発展

に結びつけていくことで、さいたま市を首都圏、また東日本、日本全体、そして世界の中でさまざまな役割を果たし、また貢献する都市として、市民の皆様が誇りを持てる都市とすることが必要であると考えております。

そのためには、これまでの取り組みを継続し、さらにまた成長、発展させていくことが不可欠であると確信しております。これまでの取り組みを継続、発展、成長させていくために、「さいたま市新成長戦略」、「しあわせ倍増計画3」、また「行財政改革推進計画3」、これらを、3つを掲げてこの選挙戦を戦わせていただきました。

「さいたま市新成長戦略」では、東日本の中核都市づくりの推進と東日本の広域経済圏構想ということ掲げさせていただいております。これは具体的には駅、鉄道網、広域道路網、空港とのアクセスの強化など交通インフラ、これまでもさいたま市の大変大きな強みでありました交通インフラをさらに拡充していくということであります。そして、2都心4副都心の都市機能の向上と与野本町駅周辺地区のまちづくりマスタープラン及び地域づくりの推進をしていくということ。さらに、この東日本全体の広域的な経済交流を推進していくということ掲げさせていただきました。

また、2つ目としては、日本一安全で環境に優しい「さいたま都市強靱化計画」の推進を掲げさせていただきました。具体的には、国の総合特区、次世代自動車・スマートエネルギー特区事業の推進と認証によりますスマートホーム、スマートコミュニティの市内全域への拡大でありますとか、防災機能を持った新見沼セントラルパークの推進、広域防災避難場所であるとかエネルギーセキュリティーの確保などに取り組んでまいりたいと考えております。

また、3つ目は「スポーツNO.1都市戦略」ということで、国のほうでも日本再興戦略の中でスポーツビジネス、スポーツ市場の拡大と、5.5兆円から15兆円に拡大するという目標を掲げられておりますけれども、さいたま市でも4年前からこの成長戦略に位置づけております。これをさらに進めて、スポーツ産業の振興と、また笑顔あふれるスポーツの力を活用した国際スポーツタウンの創造をしてまいりたいと考えております。

これ以外にも国際観光都市MICE戦略、また健康産業の育成と医療ものづくり都市構想の推進、またグローバル企業の育成、支援、企業誘致の

拡充と国際展開支援、さらにはグローバル時代の国際教育文化都市という  
ようなものを掲げて、これらをしっかりと行政の中の計画として組み  
まして、それを着実に推進していきたいと考えております。

また、市民の皆様のしあわせを実感できる都市づくりにつきましては、  
「しあわせ倍増計画3」にして進めていきたいと考えております。

1つは、「子どものしあわせ倍増」で、希望（ゆめ）と絆の教育ナンバー  
ワン都市を実現する取り組みでありまして、今後給付型奨学金、あるいは  
奨学金の返済支援制度の創設などを含めまして、教育支援の拡充を図っ  
ていければと考えております。

また、学校のリフレッシュ計画の推進、トイレの洋式化の推進なども、  
これまで以上に計画を前倒して進めていきたいと考えております。

また、2つ目として「女性のしあわせ倍増」ということで、これまでと  
同様、「子育て楽しいさいたま市」と、さらに女性が輝くまちの実現をして  
いこうということで進めてまいります。特にこの8年間も取り組んでまい  
りました待機児童ゼロの問題につきましても、旧基準ではこの待機児童ゼ  
ロを実現することはできましたが、引き続き保育所のニーズが大変高いと  
いうことも十分認識をしておりますので、引き続き待機児童ゼロの問題に  
ついてもしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますし、またあわせ  
て親と子の絆を深めていく子育て支援をさいたま市らしく拡充していき  
たいと考えております。

また、3つ目としては「高齢者のしあわせ倍増」ということで、高齢者  
が健幸で生き生きと輝く安心できる健幸長寿のまちの実現をしてまいり  
ます。これは、やはり高齢者の皆さん、健幸で元気な方々がたくさんいら  
っしゃいますので、コーディネーターを配置して、セカンドライフをしっ  
かりと支援していきたいと考えております。また、これまでも進めてまい  
りましたシルバーポイント事業あるいはアクティブチケット事業など、高  
齢者の健幸、また社会参加の機会を増やす取り組みなどもさらに一層拡  
充をしていきたいと考えております。

また、さらに今後は高齢化のもう一つの側面でもあります、いざという  
ときの安心安全を確保していくために、地域包括ケアシステムの構築など  
をしっかりと進めていきたいと考えております。

こうしたことなど、「障がい者のしあわせ倍増」、あるいは「医療・福祉健康倍増」、また「文化・芸術による豊かさ倍増」、「市民・子どもの安心安全倍増」、「自然・環境倍増」、「暮らしやすさと絆の倍増」、「中小企業対策の強化と雇用倍増」というような視点から、しっかりとしあわせを実感できる都市というものを優先順位をつけて重点的に取り組んでいきたいと思っております。

また、これらを実現するためには、1期目、2期目も推進してまいりましたが、やはり行財政改革、これもしっかりと並行して進めていかなければなりません。今回の選挙戦では、「高品質経営市役所」を目指していくということで、「行財政改革推進計画3」で、大きくは3つの柱を立てて推進していきたいと考えております。

1つは、さいたまシティスタットの確立による行政の見える化と、市民、事業者、大学との連携の推進であります。

2つ目としては、歳入を増やすための財源創出のための施策の拡充と、やはり公民連携といったものを推進していく。また、PPPあるいはPFI等、さまざまな事業手法によって、この事業を推進していくということにも取り組んでいきたいと考えております。

また、3つ目としては、CS90運動の推進と残業の削減、働き方改革の推進というものをしっかりと進めていきたいと考えております。こうした「新成長戦略」、「しあわせ倍増計画3」、また「行財政改革推進3」といったものをしっかりと進めてまいりたいと思っております。

そのためには、まずこれらを行政の計画としていくために、これらを精査をし、この4年間の工程表にしっかりとまとめて推進をしていくつもりでございます。

また、この計画の策定及び各事業の実施に当たりましては、市政運営に臨む基本姿勢であります「徹底した現場主義」をこれまで同様しっかりとつらぬいて、皆様の声、また現場の課題を把握して、適切、タイムリーに進めていきたいと考えております。

また、職員に対しましても指標等を有効に活用しながら、市が直面する課題、また迅速に進めるべき施策を職員と共有し、より効果的また効率的な市政運営を進めてまいりたいと考えております。

そして、さいたま市が持続的に発展していくために必要な対応、対策をあらゆる角度から総合的に判断し、決断、そして実行していきたいと思っております。当然市民の皆様へは、職員とともに丁寧に説明をしていきたいと考えております。

また、議員の皆様方におかれましても、今後ご支援、ご協力が必要不可欠でありますので、議員の皆様にもしっかりと説明し、ご理解をいただくように努めていきたいと考えております。

今後とも市民の皆様とともに、また職員一丸となってさいたま市発展のために全身全霊を傾けて取り組んでいくことをお約束したいと思っております。運命の10年、本当に大切な10年であります。市民の力を総結集し、また市の職員一同、この力を総結集してこの運命の10年に立ち向かっていきたいと考えております。

以上で私の就任の挨拶とさせていただきます。引き続き4年間よろしく願いいたします。

○ 産経新聞

ありがとうございました。

市長に質問のある社はお願いします。

**市長就任挨拶に関する質問**

**「4年間でやり遂げたいものについて」**

○ NHK

NHKと申します。

今全体のお話をお伺いしたのですけれども、改めてこの4年間で、4年間の任期中にこれだけは何があっても市長としてもやり遂げるのだと。逆に言えば、この8年ではなかなかできなかったことでもいいですけれども、あとの4年でこれだけは何があってもやり遂げるという、その市長の公約といたしますか、約束を教えてください。

○ 市長

まずは、基本的には3つあると思っていまして、1つはやはり子育て支援の関係です。これは、もちろん待機児童ゼロを引き続き継続していくということもございますが、それ以上にやっぱり親と子の絆を深めていく、子育てが楽しくなるような子育て支援、こういった仕組みを、量あるいは質ともに充実をさせて、さらにいわゆる子育てをしっかりと楽しみながらやれる環境をつくっていくということが一つの大きな使命であると思ってい

ます。

2つ目が、急激な高齢化が進んでくるということがございますので、地域包括ケアシステムを含めて、地域の中で安心安全に暮らしていける仕組みをしっかりとつくっていくということが大きな課題であろうと思います。これからやはり在宅で対応していくこともかなり多くなっていくかと思えます。これは、それぞれ行政がやるべき役割、あるいは市民の皆さんにご協力をいただいたり、あるいは事業所の皆さんに積極的に取り組んでいただく、そういった役割分担もしながら、また専門家の皆さんにも中心的に入っていただいて、この予防、そして医療、福祉、そういったものが切れ目なく、皆さんに安心をしてもらえる高齢社会を築いていきたいと思っております。

3つ目が、これはなかなかできなかった部分の中に入ると思いますが、やはりまちづくりのところでは、特に2都心4副都心で進めてきました。そういう意味では、昨年、先ほども申し上げましたけれども、首都圏広域地方計画という国全体の計画、そして特に首都圏全体の計画の中で、さいたま市が明確に広域的な役割を位置づけられたということは大変大きな、さいたま市の歴史の中でも大変重要な年に昨年はなつたと私は思っております。その中で、これまで遅れておりました大宮駅周辺のまちづくりを含めて、まさに人口がまだ増えている間に、もちろんまちづくりでありますから、それなりの年数は当然かかりますので、完成形ができるとは思っておりませんが、やはり基本的なところ、その礎となる部分については、運命の10年の中でしっかりと進めていかなければいけない。

特にこの4年間は、非常に最初のスタートになる重要な年になりますので、スピーディーに、またタイムリーに、物事をしっかりと決定し、進めていくことが必要になると思っております。そういう意味では、特にこのまちづくりということでは大変重要な、人口減少する前にできるだけ進めていくということが私たちは必要だと。そして、できるだけ人口減少するという局面を遅らせていく、あるいは高齢化のスピード感をできるだけ緩やかなものにしていくということが持続可能な成長ができる都市になっていくための大変重要なテーマであり、また視点であると思っておりますので、その3点について特に進めていきたいと考えています。

## 市長就任挨拶に関する質問 「選挙の投票率について」

○ NHK

もう一点だけよろしいでしょうか。

もう一つ、選挙の投票率の関係お伺いしたいんですけども、今回31%と、さいたま市としては最低の数字になったわけでありまして、必ずしも高いことがいいかどうかという議論はいろいろあるとは思いますが、政令市としてこの30%ちょっとの方々のみが投票したという選挙、政治参加意識についてどう思われるかということ、現職市長としての責任なのか、これからの役割なのか、どういうものをお感じになっているかというところをお聞かせください。

○ 市長

この投票率の問題については、私の選挙の前後、名古屋市で市長選が行われまして、これも多分過去最低のほうに入っているのだらうと思います。また、同時に行われました和光市長選挙でも過去最低になりました。また、千葉市長選挙も、30%を切って、過去最低ということになって、このところやはり全国的に単独で行われている地方の首長選挙については、かなり投票率が低下をしているという傾向にあるということでありまして、もちろんさいたま市としてもしっかり取り組まなければいけない問題でありますけれども、同時に国全体としても大きく取り組んでいかなければいけない課題なのだらうと思っております。

その中で、やはりこれまでも申し上げてきておりますけれども、市長選という選挙は、基礎自治体で市民の皆さんにとって最も身近な、生活と極めてリンクをしている、あるいは関連性の深い行政を行っている自治体のトップを決める選挙でありますから、本来でありましたらもう少し投票率が高いというのが当然望ましいわけでありまして、これが低下をしているということについては、大変残念な思いでいっぱいでありまして、私どももこれからも引き続き、それについてより上げる取り組みというのはしていかなければいけない、日常からしていく必要があるのだらうと思っております。

また、もう一方で、もちろん積極的な評価ということではないのかもしれませんが、現状については比較的变化しようという意思が少ないというこ



との1つのあらわれでもあると思っておりますので、評価としては難しいところではありますが、いずれにしても私たちもこの市政の中に、もっと市民の皆さんに参画をしていただくということで、これまでも計画をつくる段階、あるいは事業を実施する段階、あるいは計画の進捗状況をチェックする段階それぞれに参画をいただいておりますが、最も重要な投票をしていただく段階にもっともっと参加をしていただけるように、日ごろから市政運営の中でも、またさまざまな広報手段を使ってということも含めましてやっていく必要があると思っておりますし、教育という視点からも、やはり投票する参政権を持っているということの意味、あるいはその重要性ということについては、しっかりと子供のころから教えていく必要があるのではないか、と思っております。

今回18歳以上の方々が何%くらい投票されたかわかりませんが、そういったことも含めて考えていく必要があると思っております。

なかなか地方選挙の場合、大きなメディア等で取り上げていただけないということも一つの要因としてはあるかと思っておりますけれども、いずれにしてもこれは誰の責任というよりは、みんなで取り組みをしていかないと。みんなで考えて一個一個それが上がるように。これはぜひメディアの皆さんにもあわせてお願いしたいと思いますけれども、みんなで考えて取り組んでいくべき課題かと思っております。さいたま市としても、これからもいろいろな形でやはり身近な、重要な政治なのだということをお伝えできるように、これからもそんな環境づくりをしていかななくてはいけないと思っております。

## 市長就任挨拶に関する質問

### 「8年前の3期12年の考え方について」

#### ○ 朝日新聞

朝日新聞と申します。よろしく申し上げます。

市長1期目のときに、市長の任期を3期12年までにする多選自粛条例を議会に提案されて、これ否決されましたけれども、それで考えると今回3期目、最後の期ということになるのですが、現在この3期12年と限った8年前の考え方について、どう思われますでしょうか。やはり最後の期というふうな位置づけされているのか、それとももう少し違うお考えで現

在いらっしゃるのか、そのあたりをお聞かせください。

- 市長      ちょうど最初の市長選挙に当選をしたときに、そういったことをお話しして当選をさせていただきましたので、すぐに多選自粛条例というのを出させていただきましたが、この中で議会の皆様ともさまざまな形で議論をして、最終的には否決をされました。私自身としては、1人の人が過度に長くやるということについては、余りいいことではないだろうと思っております。ただ、それらの議論を含めて、何期が適切なのかということは、現時点では明確なものは特にはございません。ただ、私自身がそれぞれの1期ごとに4年間というこの期間だけを与えられておりますので、その中でとにかく全力を尽くして、その与えられた任期の中で約束をしてきたことをしっかりとやり遂げていくということが必要だと思っておりますので、それを踏まえて、その先のこと、あるいは自分なりに評価をし、続けるのか続けないのかということは、その都度考えていくということが一番適切なのではないのかという考えを今、持っております、これまでもそういった形でお話をさせていただいてきましたので、今回もこの4年間を、とにかく選挙戦で訴えてきたことをしっかりと守り、推進をしていくということに全力を挙げるとのことだと考えています。

- 朝日新聞      確認で何うのですが、昔のことで恐縮ですが、当時は3期ぐらいが適当かなというふうにお考えになっていたというような感じでしょうか。現在はちょっと違うというふうに、今のお話からだと思っております。

- 市長      そうですね。前は3期が適切ではないかと思っていた部分はあったかと思いますが、現時点では必ずしも3期ということだけではなくて、それぞれやはり1期1期、4年間という中で何をやるか、それからその中で何をやってきたのかということの自分自身の評価もあるし、また市民からの評価もあって、その中で次のことがそれぞれの判断の中で決められて、自分が出たいと思っても市民からノーと言われることもあるし、またもうちょっとやるべきだという声もあるかもしれないし、それはその都度その都度。これは別に3期目だからとか、あるいは2期目だからだとかということではなく、その都度判断されるべきものだと思って、ここ数年はそういうつもりでやってきているつもりです。ですから、3期目に当たっても、3期目やるべきなのかどうかということは、自分なりに8年間、自分なりにや

ってきたことを反省というか評価をしながら、またこの次の4年間やるべきなのかどうかということを十分に考えながら、出馬表明させていただいたつもりでありますし、またそういう考えで選挙にも臨んだつもりでいます。

## 市長就任挨拶に関する質問

### ①「交通インフラの強化について」

### ②「地下鉄7号線について」

#### ○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

先ほど新成長戦略の中で、交通インフラをさらに強化するという話がありました。この中で、具体的に喫緊に整備しようという交通インフラがございましたら教えていただけますでしょうか。あわせて、地下鉄7号線につきまして、非常に関心高い事案だと思うのですが、今の考えを教えてください。

#### ○ 市長

まず第1が、何といたっても昨年事業化が決定しました新大宮上尾道路については既に国でも予算化されております。要するに、圏央道の開通の次の大変重要な、首都圏全体にとっても大変重要な道路事業になると思っております。これをしっかりと（国及び首都高に）進めていただくということが、まず最も早いタイミングで進めていただかなければいけない事業と考えております。

それから、あわせて交通網もそうありますけれども、鉄道網ということでは、これも交通政策審議会の中で新たな答申として取り込まれました大宮駅の高度化を含めたグランドセントラルステーション化構想でありまして、特に交通の部分だけで言いますと乗り換えの改善であったり、あるいは新幹線の始発化ということについても、これは市単独でできることではありません。市のほうに権限があるわけではありませんけれども、JRに積極的に働きかけをして、そういったことにも取り組んで、その環境づくりをしていきたいと思っております。

それから、地下鉄7号線の延伸の問題については、これも選挙戦の中でも、あるいは選挙の前でも申し上げてきました。既に私たちとしては、検討段階から実行段階に入っているということを再三申し上げてきているつ

もりであります。私たちとしては、このさいたま市の発展のために、また東日本の対流拠点、あるいは中枢都市をつくっていく上で大変重要な路線の一つであると考えておりますので、さらに事業性等の課題が指摘されておりますので、これらも含めて浦和美園から岩槻にかけてのさいたま市の東部エリアの、このまちづくりと連動させながら、その延伸に向けて取り組んでいきたいということです。

○ 埼玉新聞      ちょっと今のお答えで、細かい点で恐縮なんですけれども、乗り換えの改善をJRに働きかけるというのは、これは具体的にどういうことなんでしょうか。

○ 市長      現在、これは議会からも（ご審議）いただいたり、あるいは市民の皆さんからたくさん要望いただいておりますが、今東武線とJRが、昔は東口の側に改札口があって、これ乗り換えをしても比較的短時間で乗りかえができて駅の構内に入れたわけですけれども、今ぐるっと回って中央の真ん中ら辺から入っていく形になって、非常に乗り換えがしにくくなっているということで、その改善に対する要望が数年前から出てきております。

私たちとしては、大宮駅の機能の高度化を考えたときに、こういった乗りかえの改善の問題についても解消をしていく必要があるのだろうと考えておりますし、まさに東日本の玄関口になっている駅でありますから、やはり先ほど言いました新幹線の一部始発化の復活、あるいは東武線の乗りかえの問題などを含めて、やはりこれまで以上に駅の機能を高めていくことでハブステーションとしての駅、東日本のハブステーションになってくれることを期待をしているところであります。

### 市長就任挨拶に関する質問

①「定例会に関する意気込みについて」

②「初登庁の際に、各会派で対応された方とその時の様子について」

○ 読売新聞      読売新聞と申します。

来月7日ごろに市議会定例会が始まりますけれども、そちらに関する意気込みと、あとは初登庁されてから議会の各会派にご挨拶されましたら、そのときご対応された方とご様子などをお伺いできればと思います。よろ

しくお願いします。

- 市長 6月7日から、3期目新任期での初めての議会が行われますので、もちろん議案については現にされたものになりますけれども、まさに3期目のスタートとなる重要な議会であると思っておりますので、議会の皆さんとこれからのさいたま市のあり方、あるいは将来ビジョン、これをしっかりと描きながら、さまざまな課題に対して議論をしていきたいと、建設的な議論をしていきたいと、このように考えております。

また、議長、副議長含めまして、各会派にご挨拶をさせていただきました。まだ各会派の皆さん、まだ議会の日程等々の関係もあって、余りたくさん来てはいらっしゃいませんでしたけれども、それぞれお疲れさまでしたという話と、おめでとうございましたというお祝いをいただいたところでもあります。

いずれにしても、議会と執行部という基本的な役割の違いがございますので、きちんとお互いに、それぞれの視点から議論を深めていけるような関係でこれからもやっていきたいと思っています。

### 市長就任挨拶に関する質問 「地下鉄7号線について」

- 朝日新聞 先ほどお話なされた地下鉄7号線の件に関して、ちょっと追加で伺いたいのですけれども、朝日新聞です。

たしか平成24年の議会で、市長はたしか5年後の事業着手を目標にというふうにご答弁なさったと思います。事業着手というのは、一般的に鉄道事業者による事業の申請というようなことを我々イメージするかと思うんですけれども、現在でも、そうすると今年度ということになるんですけれども、現在でもその目標に変わりはありませんでしょうか。

- 市長 一つは、やはり事業性という課題がございますので、最終的にこれを出していただけるような環境が整っているかどうかというのは、やはり事業者の当然判断ということになってまいりますけれども、私たちとしてはできるだけ早期に進めていきたいという思いがございますけれども、まだ現時点では多少課題が残っていると感じているところでございます。

- 朝日新聞 そうしますと、必ずしも今年度中になるかどうかというのは現時点では、

